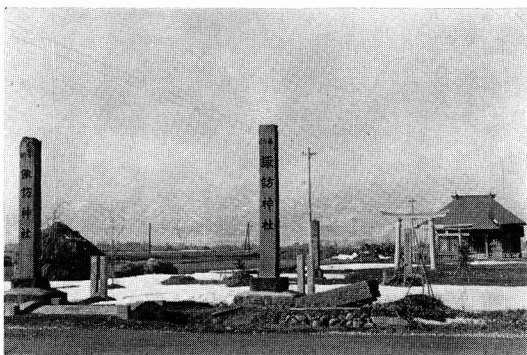




中 荒 井 村 千 葉 寺



中 荒 井 千 葉 寺 の 門 前 と 大 門 屋 敷



構造改善により移転した中荒井の諏訪神社

最初に祭られたものとすれば、村も最初はその辺につくられるのが常態であるから、洪水、河道変遷の常なかつた地域であるから、いろいろ考えさせられる。後述の石仏などもその手がかりの一つで、伝説では館に住む人、それは松本太郎左エ門という人であったとさえ伝えている。明治初年まで館の堀のあとがあったという。諏訪神社、御膳河原の関連性をも思わせる。しかし今は手がかりも薄れてしまっている。

寺院としては真言宗、求法山千葉寺が一カ寺古くよりある。旧館の真北にあたり、その南入口に真言宗、千葉寺の門柱があるが、この西側の屋敷名を大門と呼んでいる。姓は一条であるが、千葉は一条を名のったことがある